

次世代の農業担い手 応援

J A岐阜中央会 県大学校に備品贈る



給食関係備品を寄贈した櫻井宏代表理事会長
(左)と目録を受けた岩塚拓也さん(中央)ら
＝可児市塩、県農業大学校

次世代の農業の担い手を応援しようと、県農業協同組合中央会（J A岐阜中央会）は15日、可児市坂戸の県農業大学校に、給食関係の備品を寄贈した。

贈られたのは、給食を調理するガス蒸し器とガスフライヤー各1台。食堂の調理場に設置された。実習などで体力を使う学生の一助になればと寄贈を決めた。同校は全寮制の2年制で、食堂はほぼ全ての学生が利用するほか、教職員や隣接する県立国際園芸アカデミーの一部学生も使う。贈呈式が大学校の校長室

であり、J A岐阜中央会の櫻井宏代表理事会長から長屋伸人校長、学生自治会長で野菜・果樹学科の岩塚拓也さん(22)＝飛騨市出身＝に目録が手渡された。長屋校長からは、櫻井会長に江崎禎英知事名義の感謝状が渡された。

櫻井会長は「食と農業は切り離せない。しっかり食べてもらい、必要な知識や技術を学んでほしい」とエールを送った。長屋校長も「農業のプロを育てる使命を持っている。大事に使わせて頂く」とお礼を述べた。

(中村芳紀)